

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

平成30年4月17日（火）

3. 調査の対象

泉佐野市立日根野小学校 第6学年、全児童

実施児童数（ 132人 ）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、国語及び算数及び理科。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、主として知識・技能に関する内容（A問題）と、それらを活用する力などに関する内容（B問題）とする。

ウ 出題形式については、選択式及び短答式に加え、記述式の問題とする。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するアンケート調査（以下「児童アンケート調査」という。）を実施する。

(3) 学校の取組に関する調査

調査対象の児童が在籍する学校を対象に、学校における教育条件の整備状況や指導方法等に関するアンケート調査（以下「学校アンケート調査」という。）を実施する。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・平均正答率は、全国平均よりやや低く、大阪府平均を上回っている。平均正答数の全体的な分布は、国、府と比べて、中下位層が少ない。

平均正答率（本校 69／泉佐野市 67／大阪府 68／全国 70.7）

「B区分問題」

- ・平均正答率は、全国平均よりやや低く、大阪府平均とほぼ同じである。平均正答数の全体的な分布は、国、府と比べて上位層と下位層がやや少なく、中位層がやや多い。

平均正答率（本校 53／泉佐野市 51／大阪府 52／全国 54.7）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語 A	特 徴 が み ら れ た 設 問
【話すこと・聞くこと】 ○相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すことは概ねできている。 1 図書館への行き方の説明として適切なものを選択する。(91.7/90.8) 【書くこと】 ○自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考えることにやや課題がある。 2 物語を書くときの構成の工夫の説明として適切なものを選択する。(76.5/73.8) 【読むこと】 ○目的に応じて必要な情報を捉えることにやや課題がある。 3 【オムレツを作ったあとの感想】を踏まえ、【オムレツのページ】をどのように読めばよいか、適切なものを選択する。(75.0/73.9)	【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 ○文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くこと課題がある。 5 【春休みの出来事の一部】の中で――部と――部とのつながりが合っていない文を選択し、正しく書き直す。(37.1/35.5) ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことにやや課題がある。 8 ウ 文の中で漢字を使う。(しょう毒)(72.0/82.2)

国語B	特 徴 が み ら れ た 設 問
【話すこと・聞くこと】 ○話し合いの参加者として、質問の意図を捉えることは概ねできている。 1 ー 【話し合いの様子の一部】におけるきむらさの発言の意図として、適切なものを選択する (87. 9/82. 5) ○計画的に話し合うために、司会の役割について捉えることにやや課題がある。 1 二 【話し合いの様子の一部】における司会の発言の役割として、適切なものを選択する (69. 7/77. 5) ○話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることに課題がある。 1 三 これから言葉をどのように使っていくかについて、北川さん、小池さんのいずれかの意見を取り上げ を書く (24. 2/33, 8)	【書くこと】 ○目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えることにやや課題がある。 2 ー 「かみかみあえ」について【おすすめする文章】の最初の部分に のように書いた理由として適切なものを選択する (49. 2/57. 6) ○目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことに課題がある。 2 二 【おすすめする文章】の に、虫歯を防ぐ効果について、【保健室の先生の話から分かったこと】を取り入れて詳しく書く (16. 7/13. 5)

○国語Aでは、【話すこと・聞くこと】【書くこと】の平均正答率が、全国平均を上回っている。

○国語Bでは、【読むこと】の平均正答率が、全国平均を上回っている。

○漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。

○問題の意図がつかめなかったり、条件の内容を読み取ったりすることに課題がある。

○条件付きの記述問題に課題がある。自分の意見を求められる条件は書けるが、問題から内容を取り上げて書くことに課題がある。

○記述問題の無解答率が全国と比べて高く、途中であきらめてしまったり、時間がたりなかったりする児童が多い。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・平均正答率は、全国平均、大阪府平均よりやや低い。平均正答率の全体的な分布は、国、府と比べて、上位層は少なく、中下位層がやや多い。

平均正答率（本校 62／泉佐野市 62／大阪府 63／全国 63.5）

「B区分問題」

- ・平均正答率は、全国平均、大阪府平均とほぼ同じである。平均正答率の分布は、国、府と比べて、上位層が少なく、中位層と下位層が多い。

平均正答率（本校 51／泉佐野市 48／大阪府 51／全国 51.5）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数A	特徴がみられた設問
【数と計算】 ○1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことにやや課題がある。 1（2）針金0.4mと、0.4mの重さの60gと、1mの重さが、それぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ。（57.6／66.7） 【量と測定】 ○異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解することが概ねできる。 4（1）面積がそろっているアとイの二つのシートの混み具合について、正しいものを選ぶ。（89.4／87.8）	○180°の角の大きさを理解することが概ねできる。 5（1）角①の角の大きさが何度であるかを選ぶ。（93.2／94.4） 【図形】 ○円周率の意味について理解することに課題がある。 7（1）円周率を求める式として正しいものを選ぶ。（37.1／41.6） 【数量関係】 ○百分率を求めることにやや課題がある。 8 200人のうち80人が小学生のとき、小学生の人数は全体の人数の何%かを選ぶ。（42.4／52.9） ○折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることにやや課題がある。 9 示された事柄が両方当てはまるグラフを選ぶ。（53.0／63.6）

算数B	特徴がみられた設問
【数と計算】 ○示された考えを解釈し、条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表現することにやや課題がある。 4（1）「32、40」の二つの数の和が9の段の数になるわけを、分配法則を用いた式に表す。（59.1／62.7） ○折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述することにやや課題がある。 5（1）横の長さが7mの黒板に輪かざりをつけるために必要な折り紙の枚数が、100枚あれば足りるわけを書く。（48.5／43.2） 【図形】 ○合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に条件に合う図形を見いだすことにやや課題がある。 1（1）合同な正三角形で敷き詰められた模様の中から見いだすことができる図形として、正しいものを選ぶ。（78.0／71.7）	○図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が360°になっていることを記述することに課題がある。 1（2）一つの点の周りに集まった角の大きさの和が360°になっていることを、着目した図形とその角の大きさを基に書く。（39.4／48.2） 【数量関係】 ○メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述することに課題がある。 3（1）メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれているのかを書く。（18.2／20.7） ○棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することに課題がある。 3（2）一つの事柄について表した棒グラフと帯グラフから読み取ることができることをまとめた文章に当てはまるものを選ぶ。（20.5／23.9）

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の勉強は好きですか	68.1	64		4.1
算数の勉強は大切だと思いますか	91.6	92.1		0.5
算数の授業の内容はよく分かりますか	84.1	83.4		0.7
算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか	71.2	74.3		3.1
算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	75.8	78.4		2.6
算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	55.3	64.4	◇	9.1
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	87.1	90.3		3.2
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	75	78.5		3.5
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	83.4	80.4		3
算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	82.6	85.8		3.2
今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか	68.9	70.6		1.7
調査問題の解答時間は十分でしたか（算数A）	71.2	80.3	◇	9.1
調査問題の解答時間は十分でしたか（算数B）	62.1	66		3.9

○算数の勉強が好き、授業の内容はよく分かったと答えた児童の割合が全国に比べて高い。

○数量や図形についての知識・理解の平均正答率が算数A、Bともに全国平均を上回っている。

○1問あたりの情報量が多く、条件を読み取れない、質問の意図がつかめない等の理由から、無解答や誤答が多い。

○記述式の問題に苦手意識が強く、途中で読むことを諦めてしまったり、答えにたどり着くまでの説明の仕方が分からなかったりするため、無解答率が高い。

○算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないと考えている児童が多いため、学習内容と生活場面を結び付けていく必要がある。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（理科）

1. 全体の傾向

- ・平均正答率は、全国平均よりやや低く、大阪府平均とほぼ同じである。平均正答率の全体的な分布は、国、府と比べて、上位層と低位層がやや少なく、中位層が多く分布している。

平均正答率（本校 57／泉佐野市 57／大阪府 57／全国 60.3）

- ・主として「活用」に関する問題より、主として「知識」に関する問題の方が平均正答率が高い。

主として「知識」に関する問題（本校 77／泉佐野市 77／大阪府 75／全国 78.0）

主として「活用」に関する問題（本校 53／泉佐野市 53／大阪府 53／全国 56.2）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

理科「知識」	特 徴 が み ら れ た 設 問
【物質】 ○ろ過の適切な操作方法を身に付けることにやや課題がある。 4（1）ろ過後の溶液に砂が混じっている状況に着目しながら、誤った操作に気付き、適切に操作する方法を選ぶ。（63.6/71.1） 【生命】 ○骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解することにやや課題がある。 1（3）腕を曲げることのできる骨と骨のつなぎ目を表す言葉を書く。（75.0/79.4）	【地球】 ○堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解することは概ねできている。 2（1）流されてきた土や石を積もらせる水の働きを表す言葉を選ぶ。（92.4/83.6）

理科「活用」	特 徴 が み ら れ た 設 問
【物質】 ○より妥当な考えをつくりだすために、2つの異なる方法の実験結果を分析して考察することは概ねできる。 4（2）海水と水道水を区別するために、2つの異なる実験方法から得られた結果を基に判断した内容を選ぶ。（85.6/89.4） ○実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述することに課題がある。 4（4）食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導きだす結論を書く。（26.5/35.9） 【エネルギー】 ○太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用することに課題がある。 3（4）目的の時間帯だけモーターを回すため、太陽の1日の位置の変化に合わせた箱の中での光電池の適切な位置や向きを選ぶ。（33.3/41.9）	【生命】 ○安全に留意し、生物を愛護する態度をもって、野鳥のひなを観察できる方法を構想することは概ねできている。 1（1）野鳥のひなの様子を観察するための適切な方法を選ぶ。（84.8/82.1） ○人の腕が曲がる仕組みを模型に適用することにやや課題がある。 1（4）人の腕が曲がる仕組みについて、示された模型を使って説明できる内容を選ぶ。（46.2/56.6） 【地球】 ○より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述することに課題がある。 2（3）一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだわけを書く。（13.6/20.1）

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
理科の勉強は好きですか。	70.4	83.5	○	13.1
理科の勉強は大切だと思いますか。	75.7	85.4	◇	9.7
理科の授業の内容はよく分かりますか。	82.5	89.4	◇	6.9
自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか。	81.8	87.0	◇	5.2
理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。	50.8	64.7	○	13.9
理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	62.1	72.9	○	10.8
将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか。	17.4	26.1	◇	8.7
理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか。	37.1	54.5	○	17.4
理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか。	65.9	89.1	○	23.2
観察や実験を行うことは好きですか。	84.8	89.8	◇	5.0
理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか。	59.8	75.2	○	15.4
理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか。	69.0	81.8	○	12.8
理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか。	55.3	68.1	○	12.8
今回の理科の問題について、回答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。	67.4	77.3	◇	9.9
5年生のとき、理科の授業がおもしろいと思いましたか。	74.3	87.5	○	13.2
5年生のとき、理科の授業を受けた後に、習ったことに関わることで、もっと知りたいことができましたか。	59.0	75.1	○	16.1
今、社会のことがらや自然のことがらに、「不思議だな」「おもしろいな」などと思いますか。	69.7	82.0	○	12.3

○地球についての知識の平均正答率は全国平均を上回っている。

○理科室での観察や実験の頻度が低いことが、ろうとなどの実験器具の扱い方についての正答率の低さにつながっている。

○条件に合わせて解答を記述することについての正答率が低いことから、結果のみを暗記しているのではないかと考える。

○「理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか。」の割合が低いことから、それぞれの考えを共有することができず考え方を広げることができていないのではないかと考える。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【家庭生活の様子】	○自尊心が低い ○規範意識が低い ○基本的生活習慣が身についていない ○地域や社会に関する関心が薄い	○自分には、よいところがあると思いますか。 <78.0/84.0> ○将来の夢や目標を持っていますか。 <78.1/85.1> ○学校のきまりを守っていますか。 <69.7/89.5> ○朝食を毎日食べていますか。 <89.4/94.5> ○今住んでいる地域の行事に参加していますか。 <40.9/62.7> ○地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。 <51.5/63.8> ○地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか。 <41.7/49.9> ○新聞を読んでいますか。 <13.6/19.9> ○地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか。 <24.2/36.1>
【家庭学習の様子】	○学習の計画性が乏しい ○予習・復習の習慣は十分身につけているとは言えない	○家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。 <61.3/67.6> ○家で学校の授業の予習・復習をしていますか。 <49.3/62.6>
【学校での学習の様子】	○学習面においても地域と関わる機会が乏しい	○5年生で受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか。 <63.6/74.4>

本校の取組

◎これまでの取組み

【学習について】

① 書く力を高める研究

「高めよう書く力」を研究主題とし、すべての教科の授業で、自分の考えを豊かに表現できる力、目的に応じて説明できる力の育成をめざす。書く力を高めるための授業づくりや指導方法の在り方についての研究に取り組む。

② 書きチャレの実施

学校全体で書く力を高めるために、すべての学年で大阪府の提供の「ことばのカプリント」を活用した授業「書きチャレ」に取り組む。

③ 書くテストの実施

5月と11月に3年生以上で国語、算数のテストを行い、書く力の定着を確認する。

④ 授業規律の確立

「チャイム着席」

授業チャイムが鳴ったときに、席に座って静かに待つ態度を身に付ける。

「正しい姿勢」

背中「ピンツ」・足「ピタツ」・つくえとおなかの間は「ゲー」一つの授業中の座り方の定着を図る。

⑤ TT、少人数・習熟度別授業

算数科において、学習内容に応じて少人数・習熟度別授業を実施する。教師一人に対しての児童数を減らすことで、よりきめ細やかな指導を行う。

【生活について】

① 家庭学習強化週間「放課後の過ごし方」

学期の初めに、家庭での過ごし方で学習面や生活面において目標を立て、保護者の方と一緒に取り組んでもらう。

② つながりタイム

1年生から6年生がたてわりのグループに分かれて、交流をおこなう。

◎これからの取組み

【学習について】

〈国語〉

- ・漢字の学習では、各学年の配当漢字だけでなく、前年度までの漢字についても定期的に練習することで、定着を図る。また、習っている漢字は、ノートや作文などで確実に使うように指導する。
- ・物語文や説明文の学習では、文章の言葉を引用したり、文字数の条件を設定したりして感想を書く活動を取り入れる。
- ・ことばのカプリントを活用し、読む力、書く力、話す力、聞く力などの言語能力を高める活動を充実させる。

〈算数〉

- ・テープ図や数直線の読み取りの機会を増やし、数量関係の理解につなげる。
- ・本校自作の書くテストミニで穴抜きや定型文など、文章の書く練習を繰り返し行うことで、記述問題の経験を積み上げる。

〈理科〉

- ・実験や観察を行う際に、役割を決めて、一人ひとりが主体的に参加できる授業を行う。
- ・実験では、予想→結果→考察の流れを大切にしながら計画を立てる。

〈質問紙〉

- ・「放課後の過ごし方」の取組みを定着させ、予習、復習の計画を自分で立てられるようにする。
- ・学習面や生活面において、「結果」を求めるのではなく、「過程」をほめることで自尊感情を高める。